

松嶋夜話 卷之下 79

〔原文〕余住山五年前得一丈餘之琅右於石卷

〔訓読〕余山に住む五年前、一丈餘の琅右を石巻に得

〔原文〕挽來窟中

〔訓読〕窟中に挽來し

〔原文〕勒曾祖父雲居國師行狀

〔訓読〕曾祖父の雲居國師の行狀を勒し

〔原文〕欽豎於銘碑矣

〔訓読〕欽(つつし)んで銘碑を豎(た)つ

〔原文〕又瑞巖崇門東歩有五大堂

〔訓読〕又瑞巖の崇門の東歩に五大堂有り

〔原文〕慈覺大師開基慶安九年政宗君瑞巖建立日五大舊堂與共一時造替

〔訓読〕慈覺大師、基を開き、慶安九年政宗君、瑞巖を建立する日、五大の舊堂と共に一時に造替す

〔原文〕簷牙高喙而四面掛活檐

〔訓読〕簷牙高く喙みて四面に活檐を掛ける

〔原文〕今之太守内殿豎明王金額

〔訓読〕今の太守、内殿に明王の金額を豎て

〔原文〕殿中有五大尊

〔訓読〕殿中に五大尊有り

〔原文〕中央不動坐像也

〔原文〕中央に不動の坐像なり

〔原文〕四天乘牛取弓箭

〔訓読〕四天は牛に乗り弓箭を取る

〔原文〕變相威容面目不乙

〔訓読〕變相威容面目不ならず

〔原文〕享保辛亥稟公命開幄五百年來之拜觀也

〔訓読〕享保辛亥、公命を稟け、開帳は五百年來の拜觀なり

〔原文〕國下人民竟路接武

〔訓読〕國下人民、竟路（みちすが）ら武に接し

〔原文〕外鎮守山王大小堂社保内凡三十六所

〔訓読〕外鎮守山王、大小の堂社、保内に凡そ三十六所

※保内…地名？

〔原文〕不可筭矣

〔訓読〕筭う可からず

〔原文〕方丈左右有三院

〔訓読〕方丈の左右に三院有り

〔原文〕又塔頭枝院十六箇所各各給寺料

〔訓読〕又塔頭枝院十六箇所、各各寺料を給す

〔原文〕慶安二年陽徳院立

〔訓読〕慶安二年、陽徳院立つ

※陽徳院…松島湾の沿岸部に所在し、瑞巖寺の北側に境内を構える。慶安2年（1649）、伊達政宗の正室愛姫の菩提寺として、伊達忠宗が瑞巖寺の住職雲居を招き開山した。

〔原文〕承應癸巳大姊下世院后高陵立銅尾寶花樓殯之

〔訓読〕承應癸巳大姊下の世院后の高陵に銅尾寶花樓を立て、之を殯す

〔原文〕又萬治元年天麟院立

〔訓読〕又萬治元年、天麟院立つ

※天麟院…伊達政宗の正室・愛姫との間に生まれた娘・五郎八姫の菩提寺で、陽徳院、円通院と並んで松島の三霊廟に数えられています。

〔原文〕大姊寛文元年辭世院后山棟立定照閣葬之

〔訓読〕大姊寛文元年世を辭す、院后の山棟に定照閣を立て之を葬むる

〔原文〕又正保三年要山公逝矣

〔訓読〕又正保三年、要山公逝く

〔原文〕立圓通院

〔訓読〕圓通院を立つ

〔原文〕其院后宏建銅臺三慧殿廟之

〔訓読〕其の院の後、宏く銅臺の三慧殿を建て、之を廟す

〔原文〕廟之各各妥真像云

〔訓読〕之を廟して、各各真像を妥（お）くと云う

〔原文〕然而一山寄附佛享僧料計其支用

〔訓読〕然して一山寄附の佛享僧料、其の支用を計るに

〔原文〕捌佰餘斛也

〔訓読〕捌佰餘斛なり

〔原文〕今因客之求記一山事實也

〔訓読〕今客の求めに因りて、一山の事實を記すなり

〔原文〕及至于松島風光景致

〔訓読〕松島の風光景致に至るに及び

〔原文〕昔日中納言命覺範虎哉和尚

〔訓読〕昔日、中納言覺範の虎哉和尚に命じて

〔原文〕有慶長十五年之瑞巖記

〔訓読〕慶長十五年の瑞巖の記有り

〔原文〕記之畧夫松島日本第一佳境也

〔訓読〕記の畧に、夫れ松島は日本第一の佳境なり

〔原文〕四圍皆山也

〔訓読〕四圍、皆山なり

〔原文〕山間皆海也

〔訓読〕山間は皆海なり

〔原文〕水光瀲灩而疑是大湖三萬六千頃

〔訓読〕水光瀲灩として、疑うらくは、是大湖三萬六千頃

〔原文〕山色清浄者望

〔訓読〕山色清浄にして望むときは

※者…よくわかりません

〔原文〕則波心七十二峯青云云

〔訓読〕則ち波心七十二峯青いと云云

〔原文〕吁讀此記者幾

〔訓読〕吁、此の記を讀む者幾

※幾…「アテ」と読む？

〔原文〕可知松島之虫二也

〔訓読〕松島の虫二を知るべしなり

※虫二…？

〔原文〕不等余之口兌矣

〔訓読〕余が口兌を等たず

〔原文〕記日元文戌午三年之春也

〔訓読〕記する日、元文戌午三年の春なり